

ヨーゼフ・ボイス

Joseph Beuys 1921-1986 ドイツ

時計のベルが再び鳴るまでの連続性。エネルギーが場に広がり、大きくヴァイブレーションを始める。ボリューム。ヴァイブレーションはオーラルに到達する。エンラージド・プロダクションは音のための新しい生産。多くを生産することではなく。左下には、全く自由になるための可能性、インプロヴィゼーション・キャパシティ (即興能力)

ヨーゼフ・ボイスによる「コンティニューイティ(連続性)」の説明をナムジュン・パイクが日本語に翻訳

ヨーゼフ・ボイスは、『社会彫刻』という概念を提唱し、20 世紀後半以降の様々な芸術に影響を与えた。「誰もが芸術家」はボイスの有名な言葉。

1978年、ボイスとパイクが行った「ジョージ・マチューナス追悼コンサート」の楽譜「コンクリート・スコア」は消されていた。1984年に来日したボイスは、一枚の写真からそのことを思い出し、そのスコアの再現を黒板ドローイングとして描くことになった。本展では、その際に描かれたドローイング作品「コンティニューイティ (連続性) — 7つの概念全部で一つの単位: 音楽と反音楽の未来に」(1984)の展示とあわせ、制作前の打合せから、制作風景、ボイス自ら説明する様子などの記録(1984)、追悼コンサート(1978)の記録映像を公開。

視
見
真
鏡
トリップ展